

平成 28 年度 事前評価点検表（内部評価）

1 事業概要

事業名	一般府道長尾八幡線(都市計画道路長尾家具町線) 道路改良事業					
担当部署	都市整備部交通道路室道路整備課建設グループ（連絡先 06-6944-9276）					
事業箇所	枚方市長尾元町 7 丁目～枚方市長尾荒阪 2 丁目					
事業目的	<p>本事業区間である一般府道長尾八幡線の現況の道路幅員は 7.0m と狭隘である。</p> <p>事業区間の北側に位置する都市計画道路内里高野道線は、平成 35 年度末の新名神高速道路の開通に合わせ、(仮称)八幡 IC へのアクセス道路として供用予定であることから、本事業区間の交通量の増加が見込まれる。</p> <p>事業区間の西側には長尾中学校と長尾小学校があり、生徒や児童の通学路として利用され、また事業区間沿線は住宅街であり、周辺住民の歩行者が利用する路線である。</p> <p>以上のことから、現況道路幅員の拡幅と自転車歩行者道を整備することにより、歩行者・自転車の安全確保を目的とする事業である。</p>					
事業内容	道路築造 延長： 0.4 km 幅員： 16.0 m <table style="display: inline-table; vertical-align: middle; margin-left: 10px;"> <tr> <td rowspan="3" style="font-size: 4em; vertical-align: middle;">}</td> <td>車道：2 車線 (3.0m×2)</td> </tr> <tr> <td>自転車歩行者道：両側 (3.5m×2)</td> </tr> <tr> <td>橋梁：1 橋</td> </tr> </table>		}	車道：2 車線 (3.0m×2)	自転車歩行者道：両側 (3.5m×2)	橋梁：1 橋
}	車道：2 車線 (3.0m×2)					
	自転車歩行者道：両側 (3.5m×2)					
	橋梁：1 橋					
事業費	全体事業費：約 8.5 億円 （内訳）用地費 約 3.0 億円 工事費 約 5.5 億円					
	【事業費の積算根拠】 事業費は積み上げにより算出	【工事費の内訳】 ・道路改築工 約 4.0 億円 ・舗装工 約 0.7 億円 ・橋梁工 約 0.8 億円				
事業費の変動要因	【今後の事業費変動要因の予測】 現地調査したところ、事業費の変動要因は特にみられない。					
維持管理費	約 230 万円／年 <table style="display: inline-table; vertical-align: middle; margin-left: 10px;"> <tr> <td rowspan="2" style="font-size: 4em; vertical-align: middle;">}</td> <td>道路部：33[万円／千㎡・年]（過去 5 年府内実績より算出）</td> </tr> <tr> <td>橋梁部：20[万円／年]（点検費・補修費を含む）</td> </tr> </table>		}	道路部：33[万円／千㎡・年]（過去 5 年府内実績より算出）	橋梁部：20[万円／年]（点検費・補修費を含む）	
}	道路部：33[万円／千㎡・年]（過去 5 年府内実績より算出）					
	橋梁部：20[万円／年]（点検費・補修費を含む）					
関連事業	<ul style="list-style-type: none"> ・新名神高速道路 建設事業（西日本高速道路㈱） ・一般府道 長尾八幡線（都市計画道路内里高野道線） 道路改良事業（大阪府） ・都市計画道路 内里高野道線 街路事業（京都府） 					

2 事業の必要性等に関する視点

上位計画等における位置付け	大阪府都市整備中期計画（案）H28.3 改訂
---------------	------------------------

優先度	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 35 年度末の新名神高速道路・(仮称)八幡 IC の開通に合わせ、そのアクセス道路である都市計画道路内里高野道線が供用予定であることから、本路線における交通量の増加が見込まれる。 ・近隣に中学校と小学校が位置していることと、沿線は住宅街であることから、通学路として利用する歩行者や地域住民に対する安全性としては、現況道路幅員が狭隘であるため、歩行者の安全確保が十分ではない。 <p>以上のことから、新名神高速道路の整備に合わせた早急な歩行者・自転車の安全確保が必要なため優先度は高い。</p>
事業を巡る社会経済情勢等	【周辺道路の整備状況】 <ul style="list-style-type: none"> ・新名神高速道路は、平成 35 年度末の全線開通を目指し、西日本高速道路㈱が現在事業中である ・国道 1 号から都市計画道路山手幹線までの区間は、都市計画道路内里高野道線として、大阪府区間を大阪府が、京都府区間を京都府が現在事業中である。 ・都市計画道路山手幹線から新名神高速道路(仮称)八幡 IC までの区間は、平成 28 年度末の新名神高速道路（八幡～城陽間）の開通に合わせ、京都府が事業中である。
地元の協力体制等	地元市から早期整備の要望がある。
事業の投資効果<費用便益分析>または<代替指標>	現道拡幅事業における費用便益分析手法は確立されていない。 （参考）事業完了後の交通容量：8,000 台／日
事業効果の定性的分析（安心・安全、活力、快適性等の有効性）	【効果項目】 <安心・安全> <ul style="list-style-type: none"> ・歩車道分離により歩行者・自転車の安全が確保される。 <活力> <ul style="list-style-type: none"> ・新名神高速道路（仮称）八幡 IC への利便性が向上する。 <快適性> <ul style="list-style-type: none"> ・十分な幅員が確保された自転車歩行者道による快適性が向上する。 ・車の快適性が向上する
	【受益者】 <ul style="list-style-type: none"> ・道路利用者・沿道住民

3 事業の進捗の見込みの視点

事業段階ごとの進捗予定と効果	平成 29～32 年度：詳細設計、用地買収 平成 33～35 年度：工事
完成予定年度	平成 35 年度

4 コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

代替手法との比較検討	本箇所では車道と歩道の幅員を確保するためには、現道の拡幅が最善策であり代替案はない。
------------	--

5 特記事項

自然環境等への影響とその対策	周辺は市街地が形成されており、本事業において新たに自然環境に影響を与えることはない。
その他特記事項	—

6 評価結果

評価結果	<p>○事業実施</p> <p><判断の理由></p> <ul style="list-style-type: none">・平成 35 年度末の新名神高速道路(仮称)八幡 IC の開通に合わせ、そのアクセス道路である都市計画道路内里高野道線が供用することにより、本路線における交通量の増加が見込まれる。・本事業区間は、周辺の中学校や小学校への通学路（枚方市通学路交通安全プログラムへ H29 年に位置付け予定）としての利用者に加え、近隣住民の歩行者が利用する中で、現況としては歩道が確保されておらず、狭隘である。 <p>以上より、道路整備による歩行者・自転車の安全確保が必要であることから『事業実施』とする。</p>
------	--

平成28年度 事前評価 一般府道長尾八幡線(都市計画道路長尾家具町線) 道路改良事業

